

日本原子力学会 第126回倫理委員会  
議事録

1. 日 時：2021年8月3日（火）14:30～17:30
2. 場 所：Web会議
3. 出席者：大場委員長、福家副委員長、神谷幹事、伊藤委員、金谷委員、佐藤委員、菅原委員、手柴委員、出町委員、中野委員、中村委員（委員12名中11名出席）  
中山特別委員、大家オブザーバー

4. 資 料：

- 倫 126-1 前回議事録（案）
- 倫 126-2-1 倫理委員会活動計画
- 倫 126-2-2 倫理委員会役割分担表
- 倫 126-3 欠番
- 倫 126-4 2021年秋の年会 企画セッションに係る企画・準備について（案）
- 倫 125-参考 倫理委員会関連規程

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

神谷幹事から資料126-1に基づき説明があり、一部の誤記修正を行い、承認された。

(2) 委員の立候補について

大場委員長から委員の立候補者として大家知子氏（若狭湾エネルギー研究センター、関西電力から出向中）と、大家氏からの立候補届出の説明があった。

説明の後、決議を行い、出席委員全員の賛成により、委員会として大家氏を委員候補として承認した。今後、理事会に委員候補の承認手続きを諮ることとした。

(3) 活動計画および役割分担、20年企画等について

福家副委員長から資料126-2-1、126-2-2に基づき説明があり、議論を行った。

確認事項と主な議論は以下のとおり。

<活動計画>

- ・「2 ミニ講演会」についてはそのままとしている。
- ・活動計画の5-1（破砕帯評価編に関する検討）は「活動ホールド」の記載としている。
- ・活動計画の5-2（品質不正問題）は、先の倫理規定改定の論点として検討の一区切りは付けたが、本年に入ってもメーカーの類似案件が発覚しているので、枠としては残しておき、適宜フォローする。
- ・活動計画の5-3（研究機関の安全文化）は、前回委員会以降、JAEAの委員と特別委員により状況確認等を行い、安全文化と安全管理の関係の議論があったこと等の紹介があった。次回委員会では、委員会大で議論できる資料を用意して、検討を進めていくこととした。

- ・活動計画の 5-5 として東電の核セキュリティ関連事案等を枠として記載し、委員会としての議論をフォローできるようにする。
- ・6-2 は、学振会の委員会活動が終了したので、削除する。

#### <役割分担>

- ・2022 年春の年会の企画セッションについては、手柴委員に主担当をお願いする。中村委員の副担当はそのまま。
- ・今年度 1/M の研究会が実態としては 20 周年企画のシンポジウム等となり、担当はオンラインシンポジウム等の場の設定も検討することになるので、企画セッションの担当よりは負荷がかかると想定される。担当は、今後改めて検討していくこととする。

#### <20 周年企画>

- ・アトモス連載記事については、5 回目までの学会内からの執筆者については固まった。6 回目以降は学会外からの寄稿を求めることとしており、要望、ご意見等があれば福家副委員長に寄せることとした。技術者倫理を専門としている学識者、新検査制度と組織文化の関係について、現場の組織文化について、事業者の組織文化をピアレビューしている JANSI の識者等からの寄稿がよいのではないかと意見があった。
- ・20 周年企画としてのシンポジウムについては、今後検討を具体化していく。周年企画として、2022 年 12 月までの開催とする。

#### <その他>

- ・定期的な会長会見を念頭に、倫理委員会の活動状況についてタイムリーに会長や理事会に情報提供していくことを考えた方がよいのではないか。
- ・中野委員から、技術倫理協議会の 12/6 シンポジウムは、自動運転をメインに AI（人工知能）をテーマとして検討しているとの紹介があり、要望や企画について意見があれば、中野委員に寄せることとした。なお、今年度の技術倫理協議会の議長は、機械学会が担当することになったとの紹介があった。次回技術倫理協議会は 9/6 の予定。

#### (4) 2021 年秋の大会企画セッションについて

伊藤委員から資料 126-4 に基づき説明があり、現在の準備状況について報告があった。主な議論は以下のとおり。

- ・事務局に提出する「みどころ案」について、案文中の「安全文化」との用語は、「組織文化」などに、統一をとることとする。
- ・総合討論の論点など、当日の進め方について、9 月初旬までに関係者で詰めていくこととした。

#### (5) 倫理に関わる問題について（東電核セキュリティ関連事案等）

委員会として、今後どのように議論を進めていくか等について議論を行った。主な議論は以下のとおり。

- ・核セキュリティ文化に特化した議論ではなく、根底の技術者倫理は共通で重要で普遍性があるという整理で議論を進めていく必要があるのではないか。
- ・組織の中で、自由に議論できる場の活用に課題があるのではないか。

- ・組織文化を変えていくことの難しさを痛感する。よりよく変えていくにはどう行動したらよいか。組織の一員となったときに、一技術者からどう変わってしまうのか。
- ・組織としての意思決定の局面で、どのような優先順位で意思決定していくかという共通理解を徹底する必要があるのではないか。重要なことなのに優先順位が下がってしまうとすればなぜなのかという議論が必要ではないか。
- ・文化の問題という精神論の押しつけになっていないかという危惧がある。コストをかけられない制約の中で取り組んでいたのか、規制と十分にコミュニケーションできていたのかどうか。倫理という切り口が響くのかどうか。
- ・利益を生み出すところにリソースを当てる傾向はあり、一方、安全の価値に焦点が当たれば手当されていく。組織が追求する価値がきちんと定義できているかどうか。
- ・安全を向上させていけば利益にもつながる。例えば、13ヶ月運転が18ヶ月運転にできるなど。一方で、セキュリティは利益につながらないという考えがあるのだろうか。
- ・1F事故の際にも、海水取水の機能喪失が炉心溶融につながるなど、核セキュリティに関わる事象があって、教訓にできていたはず。利益は生まなくても同じような災害が生じると考えないのか。
- ・リアリティーのないものに備え難いという面はあるのだろう。一方、1F事故は様々なことを予見する必要性を求めている。
- ・災害が起きて欲しくない一番に思う人は発電所で働く人々。そう考えれば、様々なことを想定して備えることに繋がると思う。
- ・設備を担当している者は、きちんと守りたいと思うのではないか。それができていないとすれば、組織の文化が影響していることが考えられる。
- ・東電の根本原因分析の報告書が公表されたら、委員会としての見解を速やかに取りまとめていく方向性としたい。
- ・工事未完了に拘らず、工事完了を公表していた事案も検討したい。組織内のコミュニケーションの問題として重要と思われる。これは報告書には含まれないものだと思うので、公表されている情報を基に議論したい。

#### (6) その他

- ・大場委員長、神谷幹事から、倫理委員会関連規程の紹介を行った。

6. 次回：9月下旬から10月上旬頃の開催として、別途調整することとした。

以上